

平成23年度病害虫発生予察情報 特殊報第3号

平成23年9月6日
岩手県病害虫防除所

キオビトガリメイガの発生について

1. 発生状況

- (1) 平成23年、八幡平市と西和賀町で栽培されているりんどうで萎凋・枯死する株が発生した(図1、2)。西和賀町の激発ほ場では、全体の95%で被害が見られた。ほ場では lindou ほかソハマキとは異なる赤色の蛾が多く見られ、株を掘上げてみると、根は著しく食害され乳白色の幼虫が確認された。
- (2) 農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、キオビトガリメイガ *Endotricha flavofascialis affinalis* South であることが判明した。本種の発生確認は、大分県、山口県に次いで3例目である。



図1 萎凋症状



図2 株の枯れ上がり

2. 形態と生態

(1) 形態的特徴

成虫：前翅を開いた長さは、13～18mm、前後翅とも薄紅色で黄色の帯をとまなう。(図3)。

幼虫：体長は終齢幼虫で約16mm。乳白色で頭部は茶褐色(図4)。

蛹：体長約8mm。体色は茶褐色(図5)。

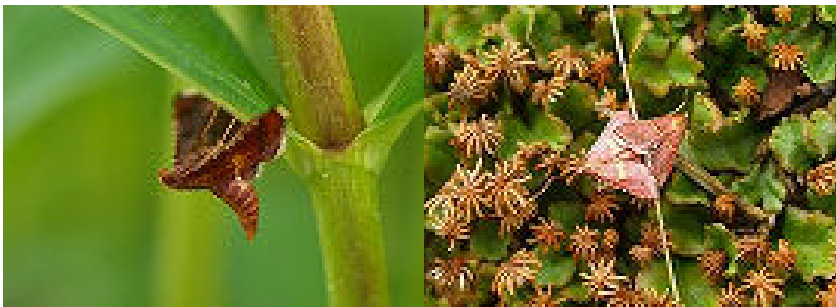


図3 キオビトガリメイガの成虫



図4 キオビトガリメイガの幼虫



図5 キオビトガリメイガの幼虫と蛹

(2) 生態

山口県では、本種の年間発生世代数は2-3回と考えられ、成虫は5-9月に出現する。雌成虫は寄主植物の根際に少数の卵塊で産卵する。幼虫は常にりんどうの株元において、その根部を表面からや穿孔して摂食し（図6）、土中で蛹化する。晩秋からは中齢～老齢幼虫で越冬する。

本県における発生生態は不明である。



図6 食害された根（左）と食害により主根を喪失した株（右）

(3) 寄主植物

確認されているのはりんどう（*Gentiana scabra*）のみである。

3. 防除対策

- (1) 現在、本種に登録のある薬剤はない。
- (2) 成虫が確認された場合、登録薬剤により他の鱗翅目害虫との同時防除を図る。
- (3) 被害株は幼虫・蛹ごと堀上げ処分する。多発ほ場においては、水田への輪作等湛水処理を行う。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX (68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <http://i-agri.net/agri/>

農薬使用の際には (1)使用基準の遵守 (2)飛散防止 (3)防除実績の記帳 を徹底しましょう